

大阪大学リーダーシップ教育研究会 第1回 議事録

【要旨】

➤ 参加者：

大澤 恒夫（弁護士・大阪大学大学院国際公共政策研究科 客員教授）、木川田 一榮（大学教育実践センター教育実践研究部キャリア教育支援部門教授）、小林 昭生（デュポン株式会社相談役）、下村 眞美（大阪大学大学院高等司法研究科教授）、仁木 恒夫（大阪大学大学院法学研究科准教授）、野村美明（大阪大学大学院国際公共政策研究科教授）、福井 康太（大阪大学大学院法学研究科准教授）、大和谷 厚、（大阪大学・医学部保健学科長）、ジョン・リベイロ（大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程）

➤ テーマ：

- 1) 名称・趣旨の確認
- 2) 大阪大学におけるリーダーシップ教育
 - ・市民社会におけるリーダーシップ養成プログラム（木川田、大和谷）
 - ・グローバルリーダーシップ・プログラム（次回にまわす）

1. 名称・趣旨の確認

1.1. 名称【野村】

「大阪大学リーダーシップ教育研究会」
→成功すれば、「リーダーシップ教育研究会」

1.2. 趣旨の確認【野村】

リーダーシップ教育研究会は、大阪大学におけるリーダーシップ教育に関する情報を交換し、産学・社会学の連携をはかりつつ、分野を超えた共同研究を行うことによって、効果的な教育方法を開発し、日本におけるリーダーシップ教育の普及とよりよいリーダーシップの育成に貢献することを目的とする。

- 1) リーダーシップ教育に関する情報を交換
- 2) 産学・社会学の連携をはかる：大学の純粋な研究者だけではリーダーシップの研究教育はできないという認識に基づき、実際に色々な場面においてリーダーとして活躍された方の経験を活かすということが絶対必要である。
- 3) 分野を超えた共同研究：理論を研究すればする程、政治学だけ、法律学だけ、心理学だけ、であればとても対応できないような内容になってしまい、分野を超えた研究をしなければならないように思われる。
- 4) 効果的な教育方法の開発：理論に裏付けられた、しかも実践に使えるような教育方法を開発することが最終目的である。倫理、責任感等を付加価値として入れても良いと思われるが、恐らく倫理感、責任感等を持った人格を発展していくことは大学の2年間、4年間だけではなかなか無理だと感じられるので、大学における教育方法だけではなく、継続的な教育プログラムや社会人向けのコースの教育方法論も開発する。
- 5) 日本におけるリーダーシップ教育：最終目的は大阪大学だけではなく、日本全体のリーダーシップ教育を考え、現在の日本の状況を改善し、まっとうなリーダーシップを教育するようなシステムを作り出す。

2. 大阪大学におけるリーダーシップ教育について

2.1. 市民社会におけるリーダーシップ養成プログラム【大和谷】

→参考資料 (sanko_shiryuu.doc)

2.2. 木川田先生からのコメント

→プログラムの特徴はレクチャーをせず、専門の先生が「気づき」を起こす課題を提供し、学生達に考えさせ、仲間と議論し、直ぐに答え・結論を出さないようにし、自分が気づいたことを明確に自分の言葉で説明させるという体験を実感してもらおう。

→プログラム自身はある意味で、舞台であり環境である。演ずる主役は学生である。自分たちで気づいて、自分たちでストーリーを作る。

2.3. その他のコメント・質問

→やる気のある少数の学生ではなく、モチベーションの低い消極的な学生に対してどのように対応すればよいか。

→教員をどのように養成すればよいか。教員は学生になることに対して抵抗がある。

→資金調達をどのようにすれば良いのか。

→創造的破壊をした後は、自立的に考えなさいという方法は効果的であるか、ただ単にぐちゃぐちゃで終わってしまわないか。

3. 参考資料

「大阪大学リーダーシップ教育研究会第1回会合概要」
(ブログ「法理論を語る」(福井康太先生)内)

URL: http://ktfukui.cocolog-nifty.com/rechtstheorie/2008/05/post_dd72.html